

		令和5年度行政事業レビューシート			(文部科学省)			
事業名	科学技術に関する理解増進			担当部局庁	科学技術・学術政策局		作成責任者	
事業開始年度	平成23年度	事業終了 (予定)年度	終了予定なし	担当課室	人材政策課		人材政策課長 生田知子	
会計区分	一般会計							
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	-			関係する 計画、通知等	第5期科学技術基本計画(平成28年1月22日閣議決定) 第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定)			
政策	7 イノベーション創出に向けたシステム改革			主要経費	科学技術振興費			
施策	7-3 科学技術イノベーションの創出機能と社会との関係の強化							
政策体系・評価書URL	https://www.mext.go.jp/content/20221215-mxt_kanseisk01-000026547-21.pdf							
事業の目的 (5行程度以内)	科学技術の社会的信頼を得るために、広く国民を対象として、科学技術に触れ、体験・学習できる機会の拡充を図る。							
現状・課題 (5行程度以内)	科学技術・イノベーションの推進にあたり、国民の科学技術リテラシーの向上を図りながら科学技術を振興することは重要な観点。「科学技術週間」は、科学技術について広く一般の方々に理解と関心を深めていただき、日本の科学技術の振興を図ることを目的として、昭和35年2月に制定された(毎年4月18日の「発明の日」を含む1週間)。全国各地の科学館、博物館、大学、試験研究所などでは、この科学技術週間にあわせ、講演会、展覧会、映画会、座談会、施設公開など科学技術に関するイベントなどを実施し、科学技術への理解を深めている。文部科学省では、国民の皆様が科学技術に触れる機会を増やし、科学技術に関する知識を適切に捉えて柔軟に活用いただくことを目的として、平成17年より、毎年、学習資料「一家に1枚」を発行している。また実社会課題解決に資する科学コミュニケーション活動に必要な能力を有する人材の育成支援にも取り組んでいる(「今後の科学コミュニケーションのあり方について」(平成31年2月8日、科学技術社会連携委員会)参照)。							
事業概要 (5行程度以内)	毎年4月の科学技術週間等を活用して、科学技術に関して広く一般の国民の関心と理解を深め、我が国の科学技術の振興を図るとともに、科学技術人材育成費補助金において令和元年度からは地域課題に対応するコミュニケーションの推進事業(補助率100%)にて、実社会課題を解決する際に必要な科学コミュニケーション活動の担い手となる科学コミュニケーターを育成するため、地域課題解決の活動現場への参加等の実習を行う大学等の取組を支援する。							
事業概要URL	-							
実施方法	直接実施、補助							
補助率等	-							
予算額・ 執行額 (単位:百万円) (インプット)			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求	
	予算の 状況	当初予算(A)	40.5	39.6	36.6	36.6	17.5	
		補正予算(B)	-	-	-	-		
						-		
						-		
						-		
						-		
						-		
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-	
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-		
		予備費等(E)	-	-	-	-		
	計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	40.5	39.6	36.6	36.6	17.5		
	執行額(G)	21	29.4	31.5				
	執行率(%) =(G)/(F)	52%	74%	86%				
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/[(A)+(B)]	52%	74%	86%					
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	歳出予算項・目		令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)			
	(項)		研究振興費			科学技術人勢育成費補助金事業「実社会課題に対応するコミュニケーションの推進事業」が令和5年度にて終了するため減		
	(目)	科学技術人材育成費補助金	18					
	(目)	庁費	16	15				
	(目)	謝金	2	1				
	(目)	職員旅費	0.4	0.2				
	(目)	委員等旅費	0.7	0.5				
		その他	▲ 1	0				
	計(A)		36.6	17.5				

活動内容① (アクティビティ)		毎年4月の科学技術週間等を活用して、科学技術に関して広く一般の国民の関心と理解を深め、我が国の科学技術の振興を図るため、学習資料「一家に1枚」を制作・配布を行うとともに、実社会課題に対応するコミュニケーションの推進事業にて、地域課題解決の活動現場への参加等の実習を行う大学等の取組を支援を行う。								
↓										
活動目標及び活動実績① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		学習資料「一家に1枚」の配布協力機関数を前年度を上回り配布を行う	学習資料「一家に1枚」配布枚数(枚)	活動実績	枚	293,975	310,501	331,423	-	-
				当初見込み	枚	239,637	293,975	310,501	-	-
↓	成果目標①-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)	広く国民への科学技術の理解増進を示す測定指標として、学習資料「一家に1枚」の需要を表す配布協力機関数を指標とし、配布協力機関数の過去最大値を目標値とすることとした。								
成果目標及び成果実績①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 4 年度	
		学習資料「一家に1枚」の配布協力機関数を前年度を上回る	学習資料「一家に1枚」配布協力機関数	成果実績	機関	309	305	323	323	
				目標値	機関	254	309	305	305	
				達成度	%	121.7	98.7	105.9	105.9	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		文部科学省調べ								
↓	成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)	毎年4月の科学技術週間では、学習資料「一家に1枚」の配布や全国での科学技術週間に合わせたイベント等の開催により、国民の科学リテラシーの向上が図られている。 科学技術週間における国民が科学技術に触れる機会を提供することで国民の科学リテラシーの向上が促進される。								
成果目標及び成果実績①-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 4 年度	
		科学技術週間における協力機関数を前年度を上回る。	科学技術週間における協力機関数	成果実績	機関	89	101	129	129	
				目標値	機関	95	89	101	101	
				達成度	%	93.7	113.5	127.7	127.7	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		文部科学省調べ								
↓	成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)	毎年4月の科学技術週間では、学習資料「一家に1枚」の配布や全国での科学技術週間に合わせたイベント等の開催により、国民の科学リテラシーの向上が図られている。 科学技術週間及び「一家に1枚」等による国民の科学リテラシーの向上の測定指標として、科学技術週間ホームページの年間アクセス数を指標とし、前年度以上を目標値として設定することとした。								
成果目標及び成果実績①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		科学技術の理解増進の状況に関する指数が毎年度向上する。	科学技術週間ホームページアクセス数	成果実績	回	244,418	246,475	155,451	155,451	
				目標値	回	436,713	244,418	246,475	246,475	
				達成度	%	56	100.8	63.1	63.1	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		文部科学省調べ								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		-								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

資金の流れ
(資金の受け取り先が
何を行っているかにつ
いて補足する)
(単位：百万円)

文部科学省
32.1百万円

庁費 14.4百万円
諸謝金 0.3百万円

国民の科学技術に関する理解を増進させるため、科
学技術週間の総括等を行う。



【補助金等交付】

A.科学技術人材育成費補助金
実社会課題に対応するコミュニケーションの推進
事業
17.4百万円
大学等(全2件)

社会課題を解決する際に必要な科学コ
ミュニケーション活動の担い手となる科
学コミュニケーターを育成するため、実
社会課題解決の活動現場への参加等の
実習を行う大学等の取組を支援する。

